

木の家づくりを通じて暮らしを提案する

KoKoLab!

隔月刊ココラボ通信

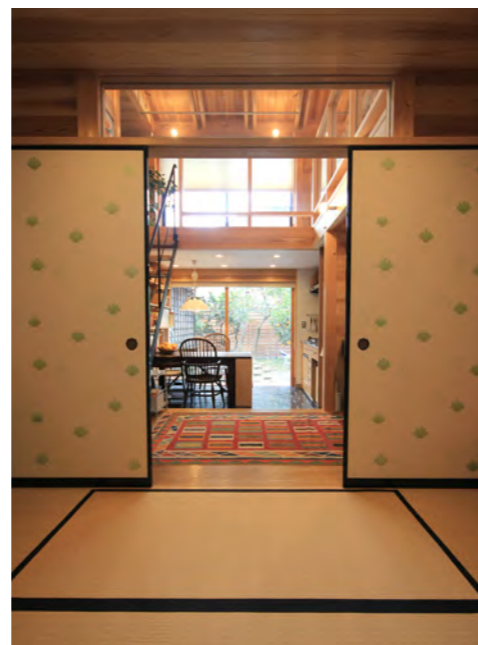
NO. 102
2023.April

完成現場報告 島田市 / 『ハチドリの家』

物語と共に楽しむ暮らし



吹き抜けの渡り廊下の一部に設けた本棚が印象的。手摺壁に透明の合わせガラスをはめ込み、明るさと開放感にこだわった。ハイサイド窓からの光が吹き抜けを更に明るくしてくれる。



1階和室から広間を眺める。1階は広間と和室のシンプルな間取り。襖を開けると心地よい風が通り抜ける。襖紙はBさんが東京の唐紙屋さんで選んだ柄で、表と裏の柄を変え、趣のある襖となった。

きながら、じっくりと家づくりについて勉強していかれました。その後数年間は停滞時期もあったようですが、お子さんの小学校入学に合わせて進めたいと思い、当社に具体的な相談がありました。打ち合せがスタートした後もBさんは熱心に情報を集め、特に素材について興味を持たれていました。家を使う素材を遠方のショールームなどに見に行ったり、旅行を兼ねて気になる建物の見学を行ったりと、家づくりの過程を楽しまれていました。最近、インターネットで情報を集める方も多く、SNSで探したり、コメントを見ながら興味を持つ方もいますが、Bさんは、実際に素材に触れた空間を体験することで、写真やカタログではわかりにくい感触や陰影を自分たちの感性で感じていました。写真では良いと思っただけど、感じるところが少なかったとか、製作者の声を聞くことで更に興味を持ったなど、触れたり体験してみることで、改めて自分たちの好みを再認識した経験だったと思います。いくつかの素材についてBさんから提案があったのですが、特に印象に残っているのがタイル選びで、カタログを見たりショールームに行ったりしながらイメージを共有していきました。その中でBさんが提示した青いタイルの床がとても綺麗で、元々タイルの床に興味のあったBさんと盛り上がり、ダイニングのタイル床選びが始まりました。

ダイナミックな吹き抜け空間。段差や素材を利用してスペースに変化をつくり、心地よく楽しい空間になった。

完成現場報告
島田市『ハチドリの家』
文・写真／コラボ 山崎健治

物語と共に楽しむ暮らし

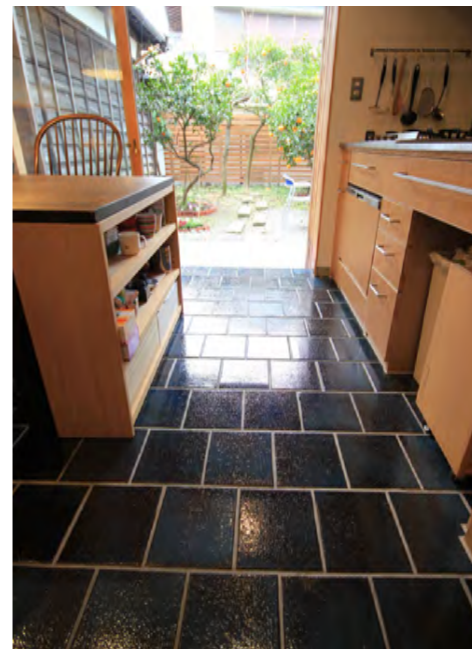
「昨年の秋に島田市に完成した『ハチドリの家』。コンパクトな木の家ですが、素材や空間など、Bさんご夫婦のこだわりが詰まったお宅となりました。Bさんご夫婦との出会いは古く、数年前に参加していただいた完成見学会がきっかけでした。木の家に住みたいと思い、知人のすすめもあり、まずは実際の木の家を見てみたいと思ったと話していました。その後も展示場見学や、当社で家づくりしたお宅を見学していただ



中庭から建物を見る。コンパクトな住まいだが、果樹が植えられた庭とつながり、広がりのある空間をつくることが出来た。中庭は子供たちの遊び場となっている。



ダイニングに続くテラスをレンガタイルで仕上げた。シンプルなテラコッタタイルを縦に貼り、Bさんの思い出のイメージに近づけた。



ツルツルと気持ちの良いタイルは子供たちのお気に入りの場所。清潔感もあり心地よく、とても満足していると話してくれた。



ダイニングの床に張った青い釉薬のタイル。色斑があり、見る角度で違った表情を見せてくれる。タイルは思ったより冷たくなく、足触りも心地いい。

時間を掛けて 選んだタイル、大満足

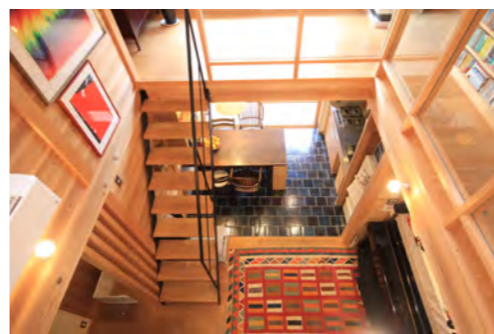
床材選びは家づくりの中でも大切だと考えていますが、基本的には木の床材が多く、タイルを選択する方は少数だと思えます。タイルは清潔感があり見た目にも華やかですが、一番気になるのは冬の冷たさ。スリッパを履くことで緩和されますが、床からの冷気は気になります。この問題に2つの解決策を採用しました。ひとつは温水での床暖房、もうひとつは大きな窓をつくり、太陽の日射をタイルに蓄熱させる方法です。どちらもタイルには相性の良い選択で、木材と違いタイルや石、土間コンクリートなどは、一度熱を蓄えると冷めにくいという特性があります。実際にBさんからの感想を聞くと、晴れた日中は太陽の日射で床が暖かく夜まで持続し、朝は床暖房を数時間入れるだけで冷たさを感じず過ごすことができると話していました。床が冷たく不快と思ったことはなく、むしろ子供たちはこの床が好きで、気がつけばタイルの床で遊んでいるそうです。ツルツルして暖かな床は気持ちが良いのだと思います。タイルの冷たさの他、硬さも気になり、立っていると疲れるのではいか？ とか、足が痛くならないか？ など心配する方も多いと思います。実際、タイルは木に比べて硬く、長時間立っていると疲れる事もあると

思います。今回選んだタイルは表面が少しうねった触り心地で、体感的に平滑なタイルに比べて硬さを感じにくいタイルだと思えます。足触りがよく、私も心地よい感覚だと思いました。一口にタイルといっても様々なメーカーがあり、選択の幅が広くありますが、Bさんはいわゆるタイルメーカーのタイルではなく、常滑市で古くから製造している水野製陶園さんのタイルを選びました。釉薬の種類が豊富で、希望に合わせて特注色で製造してくれます。今回は当初からイメージのあった青いタイルをテーマに、数ある中からお気に入りの色を選びました。出来上がったタイルは色斑があり見る場所によって違った表情になり、デザインや触り心地など、大満足のタイル床となりました。ダイニングのタイルがあまりにも良かったので、土間コンクリートで予定していたテラスにもタイルを使いたいと要望がありました。こちらは以前から気になっていたレンガタイルを採用し、張り方もBさんのイメージを聞きながら施工させていただきました。外部には少しもったいないくらいの出来栄ですが、ノスタルジックで木の家にマッチした雰囲気なテラスになりました。



子供室に飾られた版画。奥さんの子供の頃に祖父から頂いたものだを教えてくれた。「雨ニモマケズ」お爺ちゃんのつくった版画は、子供の頃からのお守り。

本とおもちゃの子供室。百町森さんのおもちゃはどこか愛着を感じ、優しさ、暖かさを感じる。子供室と広間に敷かれたラグもBさんの思い出の品。やっと使うことが出来たと話してくれた。



子供室からダイニングを覗く。住まいは1階と2階のコミュニケーションも大切だと考えている。吹き抜けは親と子供をつなぐ役割も果たしている。



右) 2階子供室から吹き抜けを見る。2階ホール、ハイサイド窓、吹き抜けに掛かるハサミ梁、どれも打ち合わせの中の対話から生まれた空間で思い出深い。

左) 本棚にはびっしりとBさんの本が並べられている。打ち合わせの中で本の種類を聞き、サイズに分けて棚をつくった。本はまだあるようで、すでに他の棚にあふれ出していた。

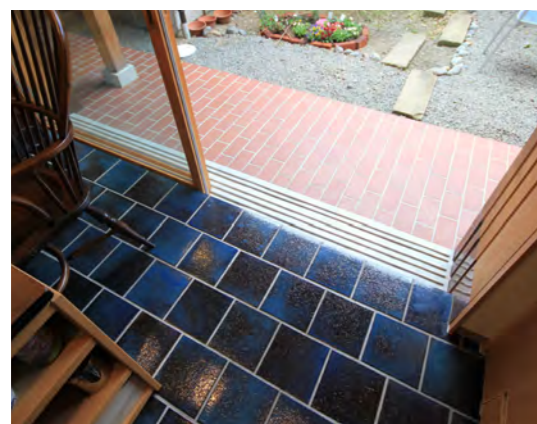
吹き抜け空間を ギャラリーに

Bさんのお宅は、祖父母の敷地の一部に建築され、元々車庫として使われていたスペースと庭の一部を利用してコンパクトな住まいを計画しました。限られた敷地での計画で、当初からコンパクトな暮らしをテーマとしてプランを考えました。1階のゾーニングは早い段階で決定しましたが、子供室を含めた2階の間取りは意見を出し合いながら検討していきました。コンパクトでもいい、でも狭い暗いは避けたい。子供室はどうしよう…。夫婦と子供、それぞれの本がたくさんあり、収納場所を確保したいなど、コンパクトな暮らしは覚悟していたけど、色々とプランを詰めていくと限られた条件の中では矛盾も出てくる。その中で吹き抜けの選択は、明るさや開放感と引き換えに、2階の床面積が小さくなってしまいます。みんなで時間を掛けて検討し、最終的には吹き抜けの一部を多目的なホールとし、サンルームにも利用出来るスペースをつくりました。また、渡り廊下の壁面を利用して奥行きが浅い本棚を配置しました。下から見上げると、ハイサイドからの明かりや本の迫力、階段の壁に飾られた絵画など、とても個性的な空間になりました。色々と目に飛び込んでくる吹き抜けになりました。色々と目が飛び込んでくる吹き抜けになりましたが、その一つ一つにBさんご家族の思い

や夢を感じ、ギャラリーのような空間になりました。私はこの吹き抜け空間が好きで、見ているだけでいつもワクワクとした気持ちになります。

木に包まれた、 夢のある子供室

将来用の子供室として、2階に9帖の部屋を設けました。板倉構法の構造がよく分かる木に包まれた空間で、屋根勾配を利用した開放感のある空間になりました。子供室には出窓を利用した本棚と、完成後に追加して造りつけた本棚があります。本棚には子供用の本がぎっしりと入り、また、部屋には百町森さんで購入したおもちゃがたくさん置いてありました。百町森さんは、ココロボ通信100号でも紹介した子どもの本とおもちゃのこだわりのお店。子供たちの成長を考えた本やおもちゃを紹介し、長く親しまれているお店です。100号制作の後お店を訪れたので、とても親近感があり嬉しい気持ちになりました。木の住まいもそうですが、本もおもちゃも、時代を越えて長く愛され、また子供たちの記憶に深く残っていくものだと思います。選択肢の多い現代ですが、一つ一つの選択の中に、子供たちへの愛情や、夢を感じる子供室だと思いました。



タイル選びの旅 in やきものまち常滑

家づくりの打ち合わせの一環で、Bさんご家族と一緒に常滑市のタイル工場を見学させていただきました。工場は思った以上に広く、土から成形、焼きや釉薬など、各工程の中でタイルが出来ていく様子を見せていただきました。中でも驚いたのは釉薬の種類が多さ、微妙な色違いや艶の有無など、驚くほど多くのサンプルがありました。色々を見せていただきましたが、Bさんが選んだタイルは最初のイメージ通りの青のタイル。一枚一枚に表情があり、サンプルを見せていただいた時から張り上がりが楽しみなタイルでした。素材はカタログや画像で見るとは出来ませんが、実際に手に取って見たり、製作者の想いなどを聞くことで、より素材に愛着が湧き、長く大切に使うことのできる住まいになっていくと思います。今回の経験はとても心に残り、その後の建築にも繋がる体験でした。

水野製陶園ラボ・株式会社水野製陶園

住所：愛知県常滑市奥条4丁目87番地

思い出の品と思い出の素材 家族を包むストーリー

家づくりの中でじっくりと選んだ素材や、いつも身近にあった思い出の品に包まれた暮らしは、新しい住まいだけど、どこか懐かしく落ち着く空間。家族に馴染み、自然体で暮らせる住まい。



2階のホールはサンルームとしても利用している。暖かくてよく乾き、とても役に立っていると話してくれた。



2階ホールの一角に設けた奥さんの書斎スペース。思い出のデスクを置き、お気に入りのスペースをつくった。



キッチンの壁にも水野製陶園さんのタイルを使用した。特注色で濃淡のあるタイルは、見ているだけで楽しい。



木の壁に包まれたトイレ。手洗いや収納棚、コンパクトだが機能的なトイレとなった。



収納棚+洗面台のオリジナル家具。清潔感があり、使い勝手も良い。



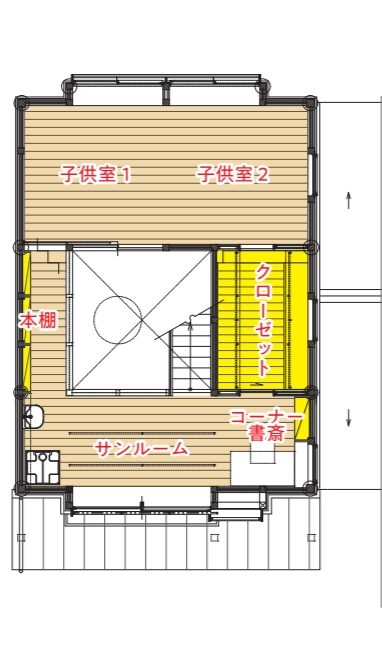
コロボ定番のタイルでつくる木のお風呂。グレーのサーモタイルと青森ヒバの優しい風合いの浴室になった。



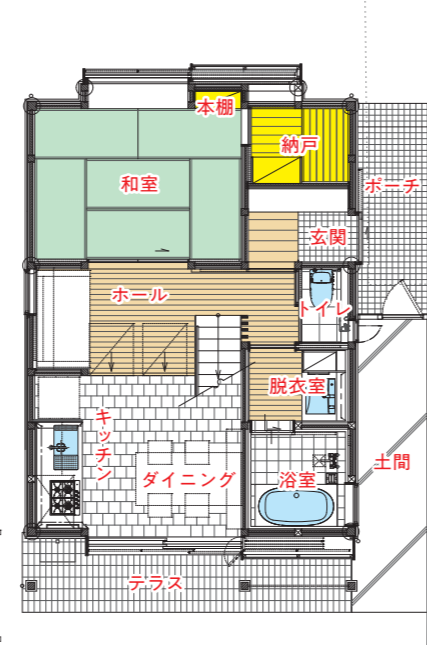
100角のレンガタイル張りの玄関アプローチは、風合いのある玄関になった。外壁は柿渋コートG古色色を塗装した。

仕様内容

家族構成	家族4人
敷地面積	138.76㎡
建築面積	45.99㎡
延べ床面積	76.98㎡
構法	落とし込み板壁構法
屋根	ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
外壁	ガルバリウム鋼板角波タテ貼 ・杉本実目透かし貼り
外部建具	木製オリジナル建具 ナラ、タモ(ペアガラス) アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	杉本実張り 厚12mm 青森ヒバFJ本実板張り 厚15mm 漆喰塗
壁	漆喰塗、青森ヒバFJ本実板張り
床	栗本実板・青森ヒバFJ本実板 ・桧本実板 全て厚15mm
内部建具	木製オリジナル建具
キッチン	ステンレスヘアークライン天板 オリジナルキッチン
洗面化粧台	オリジナル洗面化粧台
浴室	オリジナル浴室 (壁・天井：青森ヒバFJ、 床：サーモタイル)
竣工	令和2年12月



2F 平面図



1F 敷地平面図

新しい素材との出会い

今回のBさんの家づくりの中で、幾つかの貴重な体験をさせていただきました。中でもBさんご家族と一緒に買ったタイルの工場見学は、普段では見ることのない工場内部を見せていただいたり、タイルが出来るまでのお話を伺うことが出来ました。私たちは色々な素材を使って建築を行いますが、その手前の工程で、素材をつくる人たちがいることを忘れてはいけないと感じました。丈夫で長く使ってもらうための工夫、新しいものを生み出そうと日々探求している職人さんなど、その素材の裏に隠されたストーリーを知ることでも、もっと素材の魅力を生かした使い方をしていきたいと思ってきました。今回Bさんのおかげで知ることができたタイルですが、『こころの家@静岡』でも外構の塀に使用しています。私が選んだタイルはまた少し違ったタイプですが、手づくりの風合いのある優しいタイルでとても気に入っています。よい素材と出会うチャンスは今後もあると思います。そのチャンスを見過ごさず、積極的にチャレンジしていきたいと思っています。

私の好きな 愛い道具たち



vol.7

うつわ暮らしの道具テクラ

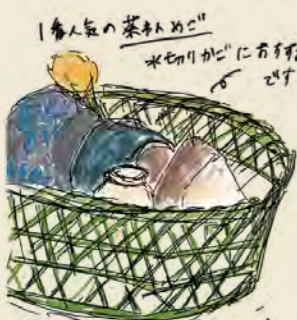
店主 宮入由起
静岡市葵区で仕事の商品をみなさまにお届けするお店と管轄です。主人と二人の娘の4人暮らし。夢は旅をしたから絵本を書く。旅日記を出版すること。仕事も喜びを染み込ませたい。



みなさん、こんにちは。テクラの宮入由起です。今回は私の大大尊敬している作り手のお人、竹細工職人の勢司真美さんです。茨城県行方市ご出身、環境問題に興味があり、地球に負けない物づくりを探し、竹細工職人の道を学びました。弟子入りか、難しい今の時代、別府で竹細工の勉強をし、学校では学べない方々との地域で伝わる暮らしの中にある「かご」を地域の職人さんと学び、貝開きしながら、1つ1つの暮らしのかごを学び、今は茨城でかご作りをしています。私も10年程前に真美さんの工房を訪れ、お仕事の木槌を拝見させて頂きました。真美さんは竹細工の中でも「着物」と呼ばれる昔の竹を用いた竹かご作りをしています。何とモーターで、とにかくタコマイ



1本1本の竹を見ても材料取りをします。100本以上も竹かごに道は竹が見えない毒をおまわります



1人毎の茶たぬい
水切りかごにそのままです

カリイイ女性、真美さん。材料の竹の採取は、山から数mの竹を運び、軽トラックに載せ、工房へ運び、そして1本1本竹を削り竹かご作り、竹かごを編まれています。暑い日も寒い日もほたけ以外のいろいろな場所でとにかく、ゴソソソ仕事をしています。真美さん。今の仕事に誇りている3月、まだまだ寒い日もない場所が必要な竹かご作り、外で仕事をされているとは思って本当にすごいです。我が家では、洗った物を入れる茶たぬい(九州ではかごをぬいと呼びました)

洗濯物を入れるかご、買い物かごは、10年程よりお色に変化して来ました。お物を入るかごなど、少しづつかごを暮らしの中に取り入れていきます。竹かごが暮らしの中にあるととても穏やかな空気が感じます。

竹細工はかご作りか、仕事の80%と言われています。ゴソソソ地道な仕事です。



かごの中を洗う道具

真美さんの竹かごは4/29-5/7テクラで開催された「甲斐陽一郎 勢司真美 暮らしの竹の仕事を」で学びました。是非テクラで実物を手に取り、美しい職人の竹細工をお楽しみ下さい。

丹物100%
竹をまわりに竹のかごの作り方を伝えています。100%の手は指先と丹物の実感を伝えていきます。すごいです。

うつわ暮らしの道具テクラ
Instagram @tekura_miyairi @tekura2013yk(私) @miyairiyuki(イラスト)

静岡市葵区大岩1丁目1-25
054-246-2856
OPEN: 13時~17時
CLOSE: 火・水 其他有

nimes



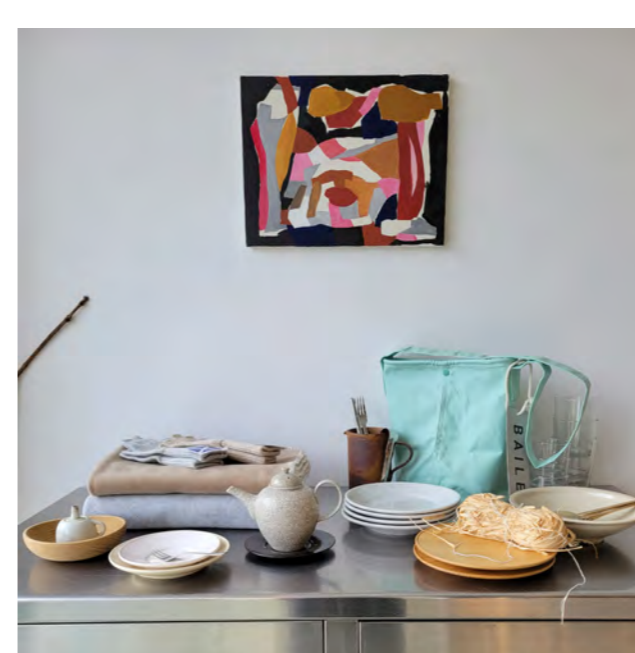
菊川市役所近くにある nimes です。食べると思わず笑顔になっちゃうような YUKiCHiCA の焼き菓子と背筋がシャキッとなるような普段使いのアクセサリー、使い勝手のよい雑貨が店内に並びます。2022年7月にリニューアルしました。菊川市にいらした際はぜひお立ち寄りくださいませ。カヌレが焼きあがるお昼時、キッシュのある週末が狙いめです♪

[住 所] 菊川市堀之内1653
[TEL] 0537-35-2642
[OPEN] 10:00~17:00
[定休日] 水曜、日曜

[SNS] Instagram: @snimes_zaitsuyuki
[URL] https://nimes1997.com/



Mato „tools (マトツールズ)



Mato „tools は、島田市にある器と生活道具のお店です。国内作家さんの器から、海外プロダクトのシンプルな器、カゴやキッチンツール、バッグなど、シンプルでいて、長く愛用できる生活の物たちを、国内外からセレクトしています。物との出会いを楽しんで下さい。そして Mato で過ごす時間も、日常より少しだけ離れた良い時間となりましたら嬉しいです。持ち帰った物たちがまた生活を楽しくしてくれると思います。

[住 所] 島田市稲荷2-8-8
[TEL] 090-2182-1408
[OPEN] 11:00~17:00
[定休日] 日、月、火曜日(不定休あり。Instagramにてスケジュールご確認ください)

[SNS] Instagram: @mato_tools



「コロラボ設置店」より…



「KoKolab」 Facebook ページ

Instagram @kokolab.jp

KoKola**b**.

隔月刊 ココラボ通信 No.102
2023年4月発行

発行人 有限会社こころ木造建築研究所
代表 山崎健治

〒427-0011 静岡県島田市東町1047-2

TEL : 0547-54-4556

FAX : 0547-54-4557

http://www.kokolab.jp

E-mail : office@kokolab.jp

担当

山崎良江(「ココラボ通信設置店より…」担当)

編集… Branch 村上幸枝

印刷所… 松本印刷株式会社

※本誌記事の無断転用や
コピーを禁じます。



[購読を希望されます方へ]

当社ホームページのお問合せフォーム又はTEL、FAX、
E-mailのいずれかでお申込み下さい。

年間購読料…1,200円 / 一冊定価…200円

(上記料金は発送費として頂いております。)

※当社、もしくは通信設置店では、無料配布しています。

会社概要

当社は、地域木材と職人の伝統技術を用いて木の家造り
を行っている設計事務所です。隔月発行の『ココラボ通
信』、また『こころばスクール』やイベントなどを通し、住
宅や暮らしを取り巻く様々な情報を発信しております。

編集後記

4月に入り、桜満開の景色が目飛び込んできます。
毎日の通勤や現場への行き帰り、今まで気にしなかつ
た景色が一気に変わり、思わず車を停めて写真を撮り
たくなる事もありました。今年初めに引き渡しをした、
藤枝市『たらの家』から桜満開の連絡をもらい、急い
で写真を撮らせていただきました。大きな窓から見え
る桜はとて迫力があり、ずっと眺めていたくなる景
色でした。これから季節は春から初夏へ、雨も多くな
り現場仕事も厳しい季節に移っていきますが、職人一
団体調と現場管理をしながら頑張っていきたいと思
います。

(山崎健治)



Information

🏠 島田市『テンプの家』構造見学会を行います。

土地探しからスタートしたAさんの住まいは、広々とした敷地に平屋風の家を計画しました。住宅
会社は色々見たけど、どれも同じような印象の建物ばかり。半ば諦めかけていた時に出会ったの
が『こころばの家』。木の香り、大きな窓、開放的な空間、Aさんは、自然と自分たちの暮らしがイメ
ージできたと話してくれました。板倉構法の利点を生かし、平屋の伸びやかな住まいをつくりたい。A
さんのこだわりを形にした住まい。まだ建築途中ですが、木組みや大工の技と共に是非ご覧ください。

◆ 日時：2023年5月中旬(日) 10:00~17:00(予約制)

※詳細日程はHP、またはSNSでご確認ください

◆ 場所：島田市

※見学会の詳細情報はココラボホームページ [http://www.kokolab.jp] でお知らせします。

※コロナウィルスの影響により、開催の変更がある場合があります。ホームページにてご案内いたします。

🏠 こころば市

ココラボの家づくりで出る端材を
お分けします！

◆ 日時：5月6日(土)

6月3日(土)

10:00~16:00 小雨決行

◆ 場所：ココラボ事務所前

🏠 木の家相談会

木の家の仕組み、予算など、
何でもご相談ください。

◆ 日時：5月6・7日(土・日)

6月3・4日(土・日)

10:00~17:00(予約制)

◆ 場所：『こころばの家@静岡』

『こころばの家@島田』

2つの『こころばの家』が見学出来ます

2つの『こころばの家』は、同じ木の家ではありますが、それぞれ違ったテーマでつくられ
ています。敷地環境や家族構成、空間のつくり方や素材の選択など、自分たちに合った暮ら
しを探す中で参考になればと思います。

毎月第一土曜日、日曜日をオープン日とし、展示場を見学していただく事が出来ます。ホ
ームページ内の申し込みフォーム、またはお電話でご予約下さい。

『こころばの家@静岡』 静岡市駿河区新川2丁目5-29 電話：054-270-7658



『こころばの家@島田』 島田市東町1370-4 電話：0547-54-4556

